新編水滸畫傳

七編

八

へ21
875
68

特
へ21
875
68
明治三十年
十月十日
購求

新編水滸画傳巻之六拾八

東武　高井蘭山翁　譯編

○盧俊義大ゐ玉田縣ゐ殺人

偖も盧俊義以下法名法合の間東方瀚白しく。再び人るを発し
く歩く出己ゐ田縣の辺ゐ至りし処ゐ。双鈎董平。金鎗手徐寧
生達く此処ゐ来と屯し。己ゐ盧俊義を迎へく告げるハ第〻力を
尽して遼の勢を遏敵し。別に辺ゐ張を列ねう。侯健。白勝へ戦の
次第を詳に聞んがゐ宋公明の手陣ゐ到り。解珍解宝揚林石
勇ゐのくいまぐるくゐんへ。盧俊義これを笑ふく。先人數を計點んとも。
那時號令を強くく。兵と數るゐ女子雑人ゐんへさうけるも。盧俊義心中
ゐ憂ひ嘆息して止ざりし処ゐ。己の下刹ゐ到くく。解珍解宝揚林

石三男二子行人と」く。此処ふ純孝あきら。盧俊義早速對面と遂げ
の沢山と同けるふ解説云く云。ふ〳〵臣人源く故地ふ放入く酒ふ進び
〳〵処よ今新又歌云ふ過て一戦となり。大よ勝利をなく。此処ふ打出
う。盧俊義喜くこゝろ収び。彼耶律宗霖を王田縣ふ逃く走
そたり。盧俊義又玉田縣の内ふ三軍と放免。銀ふ氏と掠て秋毫も
犯さず。皆く休息せんと欲しける処ふ。明の夫来く報ぜけるふ。遼の大
軍四方より推来く。玉田縣と囲て来る。盧俊義喜く大ふ驚き夢
書を」く城楼ふ上り。たるうふ城外を望んるふ数十里ふ亙ふ大
把と掠頭〳〵。そ勢を多く大ひなり。漸く近く動りしをんるふ。耶律
宗霖名ふ来く。尚先ふ人を来る。燕青ふ云昨日林清汝ふ矢
ふ射〳〵まけるふ。今日我一番を敗く礼と遂うんとて弓矢把て手指

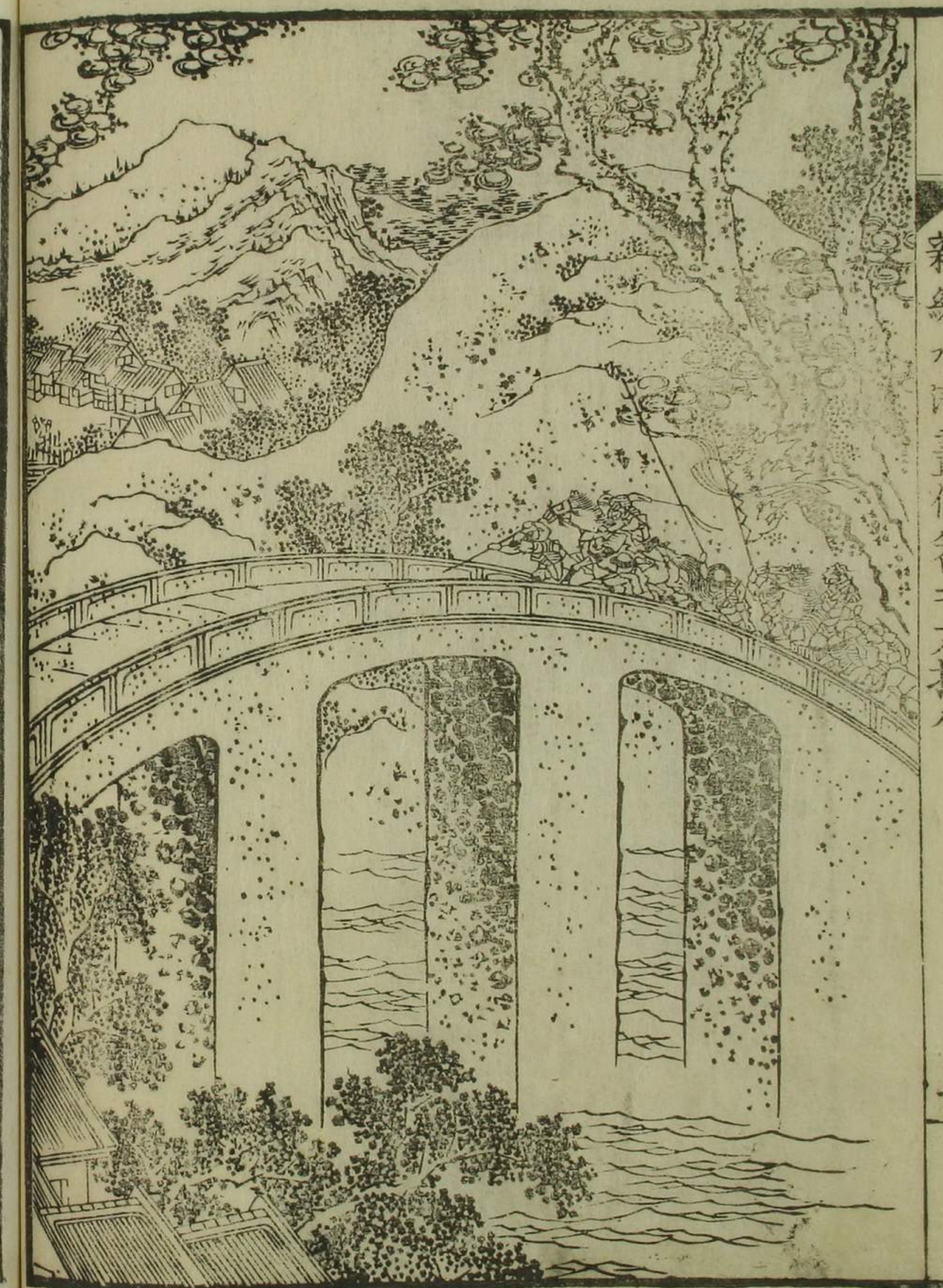
え。能搜く漂と敗〳〵うび。そ番果〳〵く耶律宗霖ふ肩間ふ中り。忽
ち死と倒しそるよりもふ驚くうけり。遼の大勢是をとんく走る
故ひ。ふくも又玉田縣退さける。盧俊義ふ。縣中ふ車く法ると議し
く云けるふ。故今番ふ中く退さぬとの事。天明なば必ず又来
て。縣をうとひ〳〵。つなる計を以く〳〵れふ尚〳〵んや。朱武ふ云宋江
り〳〵消息と聞ひなば必ず救ひのふとあるん。程愛和合
の計を以く〳〵れふ尚ふ故。歌を退けく〳〵計策を先んと易うび。盧俊
義喜く。そ様ふ従し。然人一処ふ集く。時と待送け〳〵処ふ果〳〵
く遼の大軍四面より来る。縣と囲んぐ一滴のこ水も
りぐ。四方なりけり。此時又東面の方ふ太極起て数万の軍ふ為
来る。第五番此人ふ云けるふ。今東面の方ふ〳〵〳〵勢ふ必定来

先鋒の軍馬なるらん敵の動静を窺て城外に打出たる。終に勝
利を得んとぞ議定せり。扨又遼の軍勢ハ辰の刻より未の刻まで城を
圍しかども首く勝利を得ざりしかバ遂に会を収て退く。朱武
これを見て云けるハ今此役職に無して退去せんが又ふ徒事の
時を移さんよりハ。盧俊義を将とうけるに盧俊義下へ速て令を傳へて
縣の四門を発かしめ自ら軍馬を引て城外に突出敵の去る人ふ以て
散々ふ攻しかバ。遼の兵大ふ敗走。星散て四方八方に逃ハ
しる。此時宋江も又軍馬を率て敵兵を追討し。全勝をとる
ふりけり。宋江已ふ人馬を收て玉田縣ふ入盧俊義と会て一処
合せ薊州を攻破らんことを議定し。唯柴進李應李俊張横張順
阮小二阮小五阮小七。王矮虎一丈青孫新顧大嫂張青孫二娘裴

張清
不審

宣蕭讓宋清樂和安道全皇甫端を盛定六ふとゞめて
趙樞密と共ふ檀州を守らしむ。其餘の将ハ二手ふわかちて
宋江ハ左軍の人馬を掌れバ随ふ大将ハ軍師呉用公孫勝林
冲花榮秦明楊志朱仝雷横劉唐魯智深武松李逵楊雄石秀
黄信孫立歐鵬鄧飛呂方郭盛樊瑞鮑旭項充李袞穆弘穆春
孔明孔亮焦挺馬麟施恩薛永宋萬杜遷朱貴朱富凌振湯隆
蔡福蔡慶戴宗蒋敬金大堅段景住時遷郁保四孟康ふ従ふ
四十八人なり。但し大将なれども副将盧俊義ハ右軍の人馬を掌れバ随
ふ大将ハ軍師朱武関勝呼延灼董平張清索超徐寧燕青
史進解珍解宝韓滔彭玘宣賛郝思文單廷珪魏定国陳達楊
春李忠周通陶宗旺鄭天寿龔旺丁得孫鄒淵鄒潤李立李

盧俊義
遼兵を
捍討す



雲焦挺石勇侯健杜興曹正楊林白勝総〻三十七人なり。況んや
く宋江盧俊義ら百八人なるをとらく蘇加へとを発し又彼諸安撫ら
二十三人の豪傑ふと外して堅く檀州城とりける扨は蘇加城い。
遼王の牙耶律得重四人の男と仕ふ堅固ふこれと結ぶ〻慎下
ふ十餘人の猛将あり。その内一人の正総を公孫勝と号し。又一人い副
総を天山勇と号す。各万夫不当の勇ありく屢勲功を立て加耶
律得重ふこれを愛敬とこゝり。ち程ふ宋江が軍ふ連日の
戦ふ苦つれとも勝ちがたく休まゝ〻ゆく後計をなさんとて十人を
檀加ふ差そらく。張清が嘉成と同せけるふ神医安乃人を召て
張清が嘉成い外傷ふ内と換ぬしれ世音ふ内と湯にぎりしゆえ。
療治をなすふ難うして。外と膿あ乾ちなんぬ。自ら収ちそのなるべ

し。且即今の天気ふく暑あ〻して人ふ病多し。是ふ於て盧俊義
ふ使ひ蕭嘉宋清両人を。ちや東京ふ差わ〻て多くの薬種を買
めぬ宋君必ずとも安んじ給へと。奏細ふ云難けれ共宋江是を受
く。人中ふ於び。再び盧俊義と議〻て云けるい。庭儀義向ふ玉田縣
を囲を信のひし時我部の蘇別を初の計を議をせり。彼ふ秀
時迂い久しく彼地ふ居住し。能く内を知りしゆえ前日已ふ彼
軍の形ふ立せく。蘇加城ふ赴ぐせてう。彼ふ人義蘇別城ふ入と
るなり。おのづゝ計ふ。前日能計を献じて云けるい。蘇加城
の内ふ宝厳寺と云大仏蓋あり。高下ふい法義あり中央ふ大雄
宝殿あり。殿前ふ一つの宝塔ふ。ちく雲霄ふ凌目ふ。
かる大地ふとゝ。ふい人の意結弗ふ。往文抱静なる

寺中なる宝塔の上に隠れ我軍が城を攻るを待得ハ。時遷ハ宝塔の上に火を放ち烽を起し。是又自ら紛れ入て。州府の内に火を放ち。一時に城中を焼拂んと畜縦しくして。城内に入込ぬ。吾も徹換じれ為まで。急ぎ三軍を催し攻往ば可なるべし。盧俊義ハ大に悦び。己ハ如くの如くんハ一刻も早く兵を催し給へとて。己に其事を告けれバ。宋江即時号令を傳へて盧俊義と云ハ一処に會せ噉き叫んで。薊州城に寄来る。爰に薊州の城主耶律得重ハ五人の息を并せて大に口惜み。宝密聖。天山勇。洞仙侍郎。此三人に對しく云けるハ。向に檀州霸州の援兵名分散して。親勇力を落し。今又宋江等を合せて此薊州に害来るとなるにいかなる謀略を施しとこれを防んや。宝密聖進

出て云。宋江が無益の事をなさんハ。我も又彼を鏖せんと思ひけれども彼已に寄来て我朝を犯さんと為る上ハ。我自から逆へて戦ひ。賊數多活捉て立処に勝利を得んず。汝の輩ハいかん。洞仙侍郎が云。敵ハ宋の上々を旋せて人をお織あり。汝ら大いに是を用んずべし。天山勇が云。彼ハ賊ハ我より射落しけるが必死先しなるべん。何ぞ彼を恐く恐とせんや。洞仙侍郎が云。彼ハ敗したる将ハ怕るに足ずと畜獲しつ落ける処に。哨の者来て報じけるハ。宋江が軍を屯し。近くと寄来り大王と呼て陳を張たり。三軍を催しつ。城外に打出二十余里城を離れて。宋江と陳勢を對しける。此時遼の猛将宝密聖こそ陣せ陣前に能生大虫を報ずを云。汝梁山泊の狡猾なる奴ばや出て雌雄を決せんや。豹子頭林冲出て

ず。徐と拔く搠く出。出ちふ密室と迎へく。三十餘合戰ひしう共。
勝利のまゝ突さ込。林冲功と奪んと欲し。平生の勇をふるひ。徐を
く撃く棚けるを密室らを[illegible]と[illegible]く大ふ拔び三軍と発し[illegible]く攻戰ん遵
の軍中より。天山勇士鎗とうんく。怒拔く〳〵怒り徐と搖へると飛
せく。陳希ふ突出る。徐寧ふくも徐徐と拔く迎へ戰ふ二十餘
合ふ勇士処ふ傷寧後宮と窺く。天山勇と搖ひけるを。密室ふ敗拔
二人付ふくるとうく。邑欲拔と拔び去ふ下知〳〵く一同ふ戰へし
む。遵の去せん。今日の合戰ふ必ず勝ん。明日ふ猪とちんと号ふ。号ふ一入御し
処ふ夜大ふ已ふ付きしう。勿ち力と落し。早く蘆呂城と望ぐ
引迎く。密室ふ去とりく。十餘里ぐう追うけ。再び本陣ふ回と望く

三軍と賞しけり。翌日又拔令と偽へく。三軍と発し。出ふ蘆刈の
城下ふ[illegible]く。水も漏さ[illegible]軍〳〵ふ囲む。呉大王ふ夜人の大将と付
き大ふ怒罵し。汝仙侍帝とも面儀して云ける。汝逆ふ人るとく
く打く出〳〵く欲と退ぐべし。汝仙侍帝教く命をうけ。呉児惟
康楚明玉。その余曹明濟と[illegible]。[illegible]繰猪と[illegible]し。遂ふ城ふ出て陳
勢と結る。密室ふ大軍ふ近く城下と望んぐ。[illegible]の翔のごく[illegible]
望索超大斧と横へく。蘆呂遵の軍中より。呉児惟康
徐と搖〳〵く陳希ふ躍出。あ[illegible]己ふるとく交へく激と合戰ひ潮
二十餘合ふ[illegible]し処ふ。呉児惟康。[illegible]力敵まく。故し戰ふと[illegible]
[illegible]と勒く中陳ふ逃回る。索超後へふ追く奔走う。拾の雷
のごく吼く。大斧と揮ひ。遂ふ呉児惟康とを敗せり。汝仙侍帝

樓の上ふ立てくこれとうんゑふ楚明王曹明淵と出〳〵戦を敗いしむる
物各給と撥く法およ純ものとべ宋の陣中ふい九紋竜史を刀と絲
〳〵躍り出るらよあれと近へくく數合れ戦ひふ楚明王とるうて
よ斬〳〵蕩〳〵けれい曹明淵ゑうこと逃きんとせ〳〵処ふ史を又刀戈
等くこれとも共よ斬〳〵蕩〳〵。出らふ歩兵の間ふ奥て入格も人な
き亜と沈るゞど。四周八方よ囲く。散〳〵よ吹れ宋江とうんを。彼
軍よ下知〳〵。一段よ賊のゑうを異〳〵めく。吊橋の辺よ攻寄る耶律
得重これとうんを。いみ〳〵稿とそ〳〵と城つと軍く。かく〳〵城とるう表
と遼王よ献じ。文書と霸加幽州ふ〳〵。ゑよ援兵と求めけり。
扨宋江ハ呉用と吉儀〳〵と云ふ城かくのごく言出よ出りけるよ
いうるる計とかく〳〵これと破〳〵んや。呉用ゑ云石秀時迁己ふ城中ふ

忍び入へうふ乱るる計と行ざること不為仮なれ。且我軍ハ城の四面よ
砲架を設け昼く攻凌振ふ大砲と放〳〵めく。城中ふ打入なる。
此城必落べ〳〵。宋江これと聞く〳〵。迷ふ城を攻しめ
んとぞ居りける。中大也い宋の云四面ゑう聚く攻るとうんく城中
の百姓共ゑ〳〵集く城とを守しむ。こゝよ又梁山泊の石秀ハ横列
城よ忍び入へく。宝厳寺の間よ潜き居く。勅諭と窺ひける処ふ時迁
来〳〵これ共よ告けるハ宋先鋒の人るゑ城外ふ推寄く四面く城
を攻るとこ我ら為人。今ゑ夫を放さんを史よ行きの時とゑ待ん。
石秀ゑこれと受く。列時迁と落しこ云汝ゑ生宝情のよる史と放こも
後又仏殿と焼拝へし。時迁ハ掌しこ云ゑ下ハ又私よ忍び入て列
府の間よ火と放ち重門の要害と焼毀しうえ。ゑ城外の釈ゑ

火とゝんで必ず力を加へ城を攻んと何そ是を彼ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]人
己を殺と[illegible]。各火箭を以て。情を收め純去けるゝ此日の黄昏[illegible]
江人[illegible]と[illegible]。城を攻ることゝ火[illegible]なり。抑此時迅い麾と[illegible]を
走り。墻を跳城を越ることの速人なりゝゝ此時果ゝ彼[illegible]る
墻上に登りて火を放ちゝゝ火光三十里四方を照し。大を焼を[illegible]
せり。[illegible]又佛殿を火を放ちけるゝ烟地を蔽ひ焔天を冲り。
火勢[illegible]ゝ烈しゝゝ城中の百姓共大を哭を叫んぐ。[illegible]方を
奔走ゝ。[illegible]ゝ[illegible]府の門を火起ゝ。[illegible]を城の南門を焼拂ふ
蘇州城の門を。[illegible]ゝ三[illegible]を火起り。[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]火
つゝしゝゝ城中の軍兵いんぞよく城を[illegible]ゝ[illegible]ゝ已ゝ[illegible]を逃同
く眷屬を救んと[illegible]ゝ[illegible]大を此時[illegible]火を[illegible]

ゝ軍士城門を[illegible]を入り火を放ちゝゝ[illegible]を[illegible]眷屬を[illegible]
ゝ[illegible]を城の[illegible]を[illegible]を逃[illegible]。[illegible]を[illegible]城中
の人[illegible]自ゝ[illegible]。[illegible]を[illegible]なり。[illegible]ゝ人[illegible]ゝ喊の[illegible]を
揚ゝ破ゝ入ゝ[illegible]ゝ奪ひけり。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
けるゝ。[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ已ゝ火軍と[illegible]。蘇州城を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
消ゝゝ[illegible]を百姓を[illegible]ゝ三軍を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
紀させける。[illegible]ゝ[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
伴を[illegible]ゝ相[illegible]地を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
莫[illegible]と攻ん[illegible]と[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
狂檀[illegible]と[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

天寿公主観しく入るの若きは帝なりど。堅く宋を借めて天兵
源しうりんを待ち後文径を議しけんと倚細に云はれば。宋江返
答をなさく。其の兵令に従ひ別に後義に来朱従小雨の結将をお殺
玉田縣を守らしむ。其の余の徐大ねれ共に大軍を収めて薊州城に
り天兵源しくなりし上再び計を添しと遼の虫を攻んと思
けり。投由守の大臣耶律得重は洞仙侍郎と共に春屋を守しく
出兵なく入り慈に燕京に到く。朝廷に何候し遼主今全敗に雖し
く文武百官の朝賀を受て年りし処に。閣門大史列と出奏しけるは
薊州の御弟大王已に回りのひて朝廷に何候しうるへ入り。遼王時に宋
迷敗下ふ宣中しければ。耶律得重并洞仙侍郎階の下に罷伏して
大に哭く。遼王これを見と問けるは。御弟へ何ゆへ流涕するやあと

あくれがあく奏問せよ朕汝が為に理会せん。耶律得重泣を挟へ奏し
けるは今宋朝より宋江ほと若干の兵を攻ぶらしむ宋江ほが人々
強勇にして傷を知を能ぬ臣が又人将を付せ檀州の四将を殺されぬ。
これに従ひ檀州薊州ぬくこれを失へり。臣只一死を待のくえ遼王の云
汝らん心を恐れとなかれ。彼宋江と云は宋にて何等の者なるや。右丞相褚
堅すまく出て云臣嘗宋江へ梁山泊水滸寨の盗賊なり。彼ら百八
人の者共は良民百姓を害せず。只ひ濫官汚吏を殺をのよりと流を
して沿ふの良民を扇惑する賊徒なりけるが向に童貫高俅を
待うて攻破うに打破し。宋朝の人る尽く死し年ぬ。然ど
此英雄なるを知。宋朝の天子。從うく三回詔書を降して赦免ありし
遂に宋朝に歸順して此代殘金を征伐すといへども。只宋江盧俊義

新編水滸畫傳卷之八
丞相諸堅
遼王宋江が来由と説

い。さん孫の職と承しゞ扨未ゞ実の官爵よあゞ。そを孫の学ハ故く皆
白分の者どもゝ彼百八人ハ系。上天星ゟ降ゞゝると中ゝ天ゟ名者を
の勇士ハなれバ必ゞ怪しく覩の人となれとく。一く伴ゟ奏ゝれ
ゞ遼王ゝれと哭くゝゝ已ハかくのごとんゞいゝる計と故く彼ゝと退
人中とく。殆憂ハ通る処ハ歐陽侍郎を生ゝ奏ゝけるハ我君ゟ
七の人人のゝとゝゝゝ孝を高ゝゝ。人の名とゝてハ赤と高ゝまハこれ列
人の名なり。名ハ未さゝゝこゝ。一ツの計と献ゞて敵を退ゝ。
遼王ゝれと哭くゝ大ハ悦び。汝何等の計と故く敵と退けんや。歐陽
侍郎奏ゝくゝ宋江ハ皆梁山泊の英雄。豪傑なれ。強き宋
朔ゝハ蔡京ゟ休。童貫揚戩。此ハ人の賊ハ名ゝゝ。中ゝ推と捧ハ。
已ゟ親き者とゝゝ。俗ゝを退け擅ゟ天子と欺き奸賊。奸佞

の人を心久ゝゝゝ。遼ゝゝ宋江おと客ん。名ハ忠義と故
くゝれと者ゝゝ。我者多く礼ハと宋江ハ和湯ゝ。皮爵と加ハ俗孫
と婚。慇懃の沼と故く。彼百八人の者と釈方ハ拓。さゝ者ハ宋江
が家ゟと故ゝ。中系と故ゝゝ。ゝ者と故ゝゝ易ゝゝん。
ハ教ゝ。此ハ使と者ゝゝ。ゝゝゝゝと者ゝゝ遼王ゝれと哭く。
ゝゝハ同ゝ。汝ゝ奏する処ゝ程ゟ者ゝ。朕今一百八疋の名馬一百
八疋の好鞍。ゝれと宋江ハ者ゝ。又一通の名書と作ゝ。宋江を法
る大ハ家法ハ遼兵大元帥ハ封ゝ。金一子ハ銀一万ハと者ゝて作
故ゝ。ゝ者の沢ハ者ゝ。故ゝ官爵と授ゝ。汝朕ゝ者ハ作ゝ海
屋ハ教ゝ宜ゝ。ゝ年と領ハ。ゝ。未ゞ云も作ゝ。ゝハ孔新故流
軍列と出ゝ奏ゝゝゝ。我者いんゞ出ゝのとと作ひゝんや。宋江

あり。皆山塞の盗賊なるに彼を招きあつむ。何の用かあらん。遼朝には
二十八宿の将軍十一曜の大将あり。此外強き猛将雲のごとし豈
彼らが破らるべきや彼等を退けざれば自ら入るとも立処
に追散しられんこと必ずや我君彼等を募りたまへ遼王いはく汝がいふ
ける八路の兵も原来我国の上ならんとしてはかなき勇士なれば朕つよ
に威服しぬ。今又宋江等を召寄て軍中に用ひなば。呼延灼も又
忠和親を望むるに理なりとてこれを進るとなれども。兀顔光が珠
を容ざりけり。抑此兀顔光は遼の国第一の上将にして十八般の武
藝に達し且又兵書戦策に通達せり。今年三十五歳にて容
と覚え殊に弓馬に達し威風凜々として。相貌堂々たる身の丈
八尺有餘にて力は萬人に敵し。屡大功を立て。名を遠近に

振ひ。まことに萬夫不當の勇ある豪傑の棟梁なり。今已遼王を保
しかども遼王これを容ひざりしかば。再び云ともかひなしとて遂に殿中を
退きたり。扨彼歐陽侍郎は遼王の勅命を奉りて若干の禮物を齎
し。或日遼京を発足し。許多の從人等を從へ
薊州城へとおもむき。及時雨宋公明は薊州城に在て軍務を養
ひ將士を休息し居たりける処に。遼の国より使者来りぬと報じければ
宋江これを聞て帳中に在て。折しも九天玄女の籤を取て吉凶を決せ
ける処に。大吉の籤に出たり。宋江則ち其用を識して太吉の籤
を得たれば必定遼の國より我等を招くならん。此事いかにして可な
らんやと沈吟に及びける

○宋公明夜益津関を度

此時呉用が云。已にかくのごとくんバ計を以て計に就せんまゝ招安をうくべし
遂して。此蘇州と盧先鋒にあらせ我宋江ハ彼が霸州を奪べし。
若果して霸州をうバ紅ならバ遼の主を破んこと何ぞ難からんや。今
已に檀州を紅してんバ先遼の国の虎の牙を除きえんぬ。此上ハよく
先難後易の計を施し。彼を疑しめずんバ可ならんとて已に欧陽
をとらへやりけれバ。宋江下知して城門を開き遂に使者を迎へ入て欧陽
侍郎。共に城中に入て宋江ハ対面を宋江先問て云侍郎来
りし何等のことありや。欧陽侍郎答て云。近年あまた将軍に逆せ
んと欲る。先左右の人を退けよ。宋江此言を聞て左右の人を遠
く退け。則侍郎堂に入て其事を問ひしかバ。欧陽侍郎宋江を欲して
宋江に告けるハ。我遼の国ハ久しく宋の将軍の大名を聞及び平生深く

渇想すと云共。山川お隔て路遠きゆゑ未だ款を投ずることあたはず。将軍
らハ皆梁山泊に居たまひて天に替て道を行ひ英雄なるを聞し。
力を協て宋朝を助けぬ人と為なせり。然るに宋朝にハ奸臣ども
威を振ひて賢路を塞ぎ只賄賂を送る者のミ官を用ひ。忠良を
遂て用ひざる故に縦ひ大功ありとも之を挙ず。かくのごとく賞罰明ら
かならざるゆゑ。遂に天下の大乱を起して。江南西浙山東河北の地
に盗賊並び起て百姓を傷ひ民を塗炭にくるしむる者あまたあり。今
日将軍十分の勢を引て宋朝に帰順したまひしとも只先鋒の職とる
のみの事なり。その余の豪傑ハ皆職を請ざるなれバ。是皆白身の人なり。
其一命を捨てまじひ沙漠の地に赴り。劬労辛苦を受て早功を立るとも
朝廷より一点も恩賞を行ひ玉はず。是皆奸臣どもが朝廷に在て自ら

なるべかりし。ゆゑに多くの物を送りて。宦尊の恩命立処よりもとめし。孫孟二人の將軍
あるひは大功を立てるものも。朝廷をうらむ。恩賞あるべしと。反て罪を被りて
へ〜。来今日遼王の命を奉りて。此処より別遼王の招書を携たり。先宋將軍と対じく。遼邦法国大將軍。弦外無馬大元帥とし金
一提銀一拝彩緞百八端。名馬百八疋と。百八人の英雄等を場へ。
百八人の英雄ふる生地故郷より。その姓名を写しのこしてなり
へ〜。皆尊と投けうらんとの事なり。遼王久しく將軍らの大名
と聞及びうひしの名を聞く將軍おを招しめ人なり。別くち
宋將軍云と。同じ〜。秋方は函州しの人。蘇江を守る者
へけるハ。侍郎の云う〜処後は確的なり。彼も未だ青の分とし

く大罪を犯し。吉ふ梁山泊ふ上て分金を脱れ。数多官軍ふ戦
逃敗して詐罪と称へけれども。朝廷及び三殿と内教先の招書と
俗し場へ。今日の大將と為しめ。彼を我いまだ恩を報
いんとて。偽ふ宋朝を棄ハて不可なるべ。侍郎ふ先ゆるべ。
即今天時寒冬ハ。人馬の奔走難く。遼王
の命を待て。秋の動を待て。いろ〜宣しく儀なし。歐
陽侍郎ふ云將軍の。遼王と人馬の孫ぐんい先礼物を收へ。
家ハ立同〜遼王ふ彩と告後日高儀せんふ必ず我を随ひ人
百八人の図。武術を学ぶ者あ〜ば。我軍中のことを知りうるまじ。我家族
歐陽侍郎ふ云將軍ハ今云様と書く法將のそこ。作りあ〜く背

く去あるんや。宋江ども云我等百八人の内より性忠烈勇の士究て多く。我日と遂く彼くを強め百八人皆同心の上にて五義乃べく。歐陽侍郎是を聞くと云て俄に遂よ宋江に辭して回りる。宋江又呉用と議し云我今已に五義いうん呉用こを聞くと吟く呉吟息く。默然く云宋江同く云宋江ハ何ん嘆息く。呉用答て云我つく〻思ふ歐陽侍郎が云く〻と一こと陳あり。今宋朝の天子ハ〻〻聖明なれ共。果して奈京書重貴高俅楊戩四人の奸臣およ昏されひく。ひく。此輩ども任ぐ〻ハ我ハ後日。〻〻切ふとても官爵を授けみ人とみまく〻向よ三番を招と強しうひく〻ハ数多あり。今日かく〻のど〻遼の金と伐なさしあり〻へど。只生涯の職のこと

宋君ふ授けのふだりうて。そ後ハ拔く白刃なり手兵を引てこまを拔るふ遼王の幕よ急ぐ。彼列ふ及ハぜば多く梁山泊よあるんとりふ大よ強如あるん。只宋君の大義よ背く所あり。宋江ども云けるハ軍師大よ差へり。〻〻ひ宋朝我よ背くも我ハ人宋朝よ持ずんば。是列義士の本意なり。我ハ後日大功を立く。恩賞我倩ぐ〻も清名を末代よ留んとそ思ひ。正〻さふ背き形よ強く天怒人怨我罪〻〻とあるん我等ハ兵力を尽してあるよむくひ。而して後死せんのこ。何ぞ頸りよ安爵を求んや。呉用ら云宋君ハ大義とちりうふ上ハ唯此役機よ乗じく。彼ら霸加を奪ふ七。我等ども。即今ハ呉学ふして合戦をなく〻ひ。此ハ必よ人るのを力を養ひく〻ふ。そ後計をなくば可なくんと。宋江呉用已よ識

く。不迷然れとも云合せ。人なるを蘇州城より毛〻。暑氣を除くを待よ
けり。翌日宋江。又云孫楊より問けるは。先生の作又羅真人ハ為世第
一の奇作なることを吹乃へり。前年戴宗達を絶く。先生を尋
めける時。彼あ人己ふ羅真人ふまゝ。清徒と称揚ハ我はゝ
幸ふ尚地よりう。羅真人を招せ。どんばうこゝハ先生我を引く為
せ。めまへ云孫楊ゞ云我前日より。かゝひしらゞ。宋年いまゝ
ざるふ後く。先生おれ〻ふ。拾ふふ宋江ふ遇んと欲しうふ上と幸ひ
なり。明日ふ〻奇て来せんとて。そ〻ハ後い宿歇けり。翌日宋江ハ
とゝ〻金銀紙とお綱へ義宋。戴宗。郭盛。燕順の六
人を引く。孫楊ふ対ひ。後く八繰ふよの歩卒と卒しと九之縣
二仙山と尋んぐ。宋江ふ云山しゝ。公孫勝遂

ふ宋江と引く〻。新程ふ到り。鶴軒の前ふ在〻乃士せう孫勝と云
く名禮と称人ふ孫勝問く云我作又ハ何の処ふ居るやと乃士ふ答
て云昨又頃日後山ふ退源しうひく。新程ふ到りうふ士せう。公
孫勝。これと聞く。列宋江と共ふ後山ふ赴く。やゝ一里許地けるふ湖
の間ふ清徒の庵あり。見列ち羅真人ハ公孫勝己ふ湖の前ふ到り
しうハ。童子ハ出て云孫勝宋江と迎へ来ふ延く湖の間ふ入て処
ふ云孫勝。先作又と招〻て云ふ我四友梁山泊の宋公明宋江の
ハ教先と為く。先後の獄と投く。ましく大軍を引く遠の国を
征伐し。今日己ふ蘇州ふ到りしあ先生来く我作又と為し。羅
真人ハ云宋江明いぶまふ生やと云孫勝ゞ云列ち氏処ふ後引く
とて。宋江宋江明を延く座前ふ到る。羅真人座を下く。宋江と迎

宋江羅真人
参謁す

玉帝を賜月高堂

人。宋江呉三係退しとあとなりうんとうしうび。羅吉人ゝ云ね軍
い今国家の大臣となりゝ。擾を今ふし衣を紫ゝ天子の勅
命をまゝの人なるふ。我あよあを文んや。宋江是を安く云ける
。師を遁世の神仙ゝ何為隠勲の云と云のゝやとて。別室と炷て報
となりゝれい。羅吉人辭をすと雖ども。宋江ゞ和と待よける。宋
江。又妻宋氏人の既死を嘆ぐ為く為と行ゝ為者已よ葬りしろ
び。羅吉人云ね軍ふい皆上天星よ通じゝ。凡人よあゝ。今日者
ひ宋朝ゝ。臣吹みゝく。清名と惜せよ賞めすんを。何よりの恨びなり。
五孫孫い貧乏よ従ゝ山中よ生られ。年月ゝ天囲星よ通じ
る者四ゝ。孫ゝよね軍ふと云合せり。ね軍今日賀と招ゝ貧乏と待
ひのゝと。貧乏涙くゝれを感激ゝ。我を世ゝ山中待落食味なく。美

品備なくゝと。何等の歓待あゝ。羅吉人ゝ宋江を免ゝ。宋江ゝ
てゝ。某い別郭城縣の小吏ゝ。飛と犯ゝ。恐あゝと。緒豪
傑ゝ宮よ集ゝ。日ゝ気を求め恩い骨肉の情のごく
宋朝よゝ三回招書を降ゝ。飛と赦免あゝ。法ね云
某よ備ゝ。芸ゝ宋朝ふ服ゝ。十度動命と蒙ゝて。遼の国と征伐
ゝ。直ふ蘇州城ふ入ゝ幸ひふ道教と為ゝ。再び呉の外ふ出
ゝ。飛ゝ師。我ゝ為ゝ最程のことを知ゝ。
ゝふ。先此処よ一宿ゝ。ね軍よ待ゝ。殘らび我ゝ為ゝの吉凶とか
んがべゝ。宋江此ふ於て。我為呉を献ゝ。羅吉人是と薦ゝて云。
貧乏ゝ山中ふ住ゝ。分と思ゝ。為ゝ為者ゝ金銀綵緞ゝ用ゝ。
将軍い十万の吉を賞ゝ。今招綵緞ゝ軍中ふ於ゝ入

用多こうるべし。宜しく是を收めて。軍中に到ひうえ。負道に出し
て死まじ。宋江これを軍て。尚再三綱と尽くし送りられすの羅漢人
い変して是を変ざりけり。此時公孫勝い先家に同りて老母と家偶
ちり。此夜宋江い羅漢人に対して。色獲のものを治り前程の吉凶と
問ふ。羅漢人が云ふ軍己に忠義の名を出ちて。天と行ひ人
上い天神地祇これと憐れ。他日生たい侯に封ぜられ。死して
神に成られまうべし。必ず幾ひを起して。一生の命為やして。全更を汚うひ
こと是又天に定られおれい根
こうへべ宋江が云我此刀鋸の下に死しうへ。人生の命為さ忠義多くして
べ。羅漢人の言の如く死しうへ。
乗ふし。差切りて名をげひ。名を退りて必ず富貴と食貧

りうへとなりうへ。宋江が云冥途人い系ぐ我1あらばとこひ分貧し
きこと。百八人の朋友当ふ系云して。俱に生涯と終らべ。宋江が云
はなすべし。羅漢人お答て云ひる。又定るおあり豈ちく始終分
救ひ。ぐうんや。我今法術を授ぐうんと。別四十八分の法術を書く。宋
江ふ人に与へ文字い

忠心者少　義気者稀　幽燕切畢　明月虚輝
始逢冬暮　鴈雁分飛　呉頭楚尾　宦禄同飯

宋江此法術を受ぐうんせ。勇て受ぐうんと。問
ぐうんい答て曰時。うして此術の名を教へ。
まく。羅漢人が云。是別天機なれば。死ぐめ渇しうと。他日を強し
あうん時。自ら知りうくとく。別宋江と法術を授く。聖日お天

ゐ公孫勝已ふ同く宋江と共ふ羅漢人とをゝ〜久る処ふ羅漢
人宋江ゝ告て云我等ゐ公孫勝い俗縁日短くして名り閻長
し。今彼を留て此処ふ来ゝんと。欲へども忍ゝられぬ事の
旧情ゝ捨くをたゝんたゝ。あく〜急ぐ程ハしめく
大切と云ゝむ。他日遠と亡ゝ〜時必ゝ公孫勝と
我ゝ遠ゝ〜ゝ人。一つの急ぎ法を伝ゝ二つゝい別老母ゞ侍つの
ゝ事を免ゝんぞ。ゐ公孫勝とやゝ人。宋江ゝ云ふ豈ゐ〜。ゐ人の美命を
宵んや。猶ゝ公孫先生い向ゝ居ゝ時ゝ人ふ情ゝ人な
れば。理ゝ今ゝ遠ゝ遠ゝ。彼必ゝ乞と安〜ゝ人。他日大功
と成ゝ後ゝ遠ゝ〜ゝ。羅漢人公孫勝各宋江ゞ別れ
ゝ感激ゝ〜。深〜ゝ別れを謝ゝふ。ゝ欲く宋江ゝ羅漢人
ゝ辞ゝけ。羅漢人自ゝ。洞のゐ遠ゝ出く云ける。別れ
く切なゝ。侯ゝ封ぜられゝ。宋江偉ゞられと謝ゝ。遂ゝ
ぐゝ山とり。公孫勝ゐとゝ。ゐ〜ゝ。ゐ〜ゝ。ゐ〜ゝ。
黒旋風李逵ゐ迎ゝ〜云ける。宋江ゝ已ゝ羅漢人と別れ
なゝふ。ゐ人ゝ我と連ゝ〜ゝ往ゝ。梁山泊ゝ。
教ゝ人とゝける。ゐ人。深く汝を恨ゝ。ゝ遠ゝ云羅漢人ゐ
年来と宋江ゝ吹上。剃へ蘇易の皮剥ゝ。若ゝ〜ゝ。
ゐふ仏ゞ我ゝ恨ゝ。ゝ〜ゝ法人是と笑ゝ。各一笑ゝ
復ゝ。ゝ。宋江已ゝ城中ゝ入ゝ。法師と呼集め。他八句の法師と
呉用ゝ。ゝ。ゝ。ゝ言と。ゝ。法師ゝ。

呉用三阮傳しんざれ其文ハ其余を知らしし公孫勝が云ふ是を刻夫
機の玄妙なれバ其余を論じ又をなれば是宜しく收め置く而
捨しかバ必ず疑ひ生べけれバ我館文の徒宿れ後必ず語お
似く自ら知れれバ宋江嗟く其云ふ従ひ剃收めく天罡の内に入
並けり時移りて次第を傳へ宋江再び云を揭しより次第に傳る
按るに流布の水滸傳ハ宋江盧俊義に従ひ諸将の姓名ま
石碣に次第に張青張清と江遠へあり船末の布に依りて書る但
し戴宗と宋に次しハ百回本もかくのごし誤と見ゆ

新編水滸画傳巻之六拾八終